

地球の

なかまたち

ピッポとポッポ

photo by toyoosa



「ピッポ、ごはんの時間ですよ」

お母さんカバがピッポにいいました。

「あっちにあるから、ついていらっしゃい」

お母さんのうしろからピッポはトコトコとついていきました。

ピッポのごはんは青草やおからです。

にんじんもあります。



「さあ、たべましょう」

お母さんカバは草をたべはじめました。

「ママ、あれはなに？」

ピッコは目の前を何かが通りすぎていくのに気がつきました。

ピッコはひとりっこでした。

お母さんカバのほかは、生まれてから見たことがなかったのです。

「あれはね、はとのポッコちゃんよ」



「ポッコちゃん？ ぼくと名前がにてるね」

ピッコはうれしくなりました。

「ポッコとピッコ、ピッコとポッコ」

ピッコはうたいはじめました。

はとのポッコちゃんは、ゆうゆうとピッコの前をあるいていきます。

「ポッコちゃんはこちらへよく来るから

きっとおともだちになれますよ」

「おともだち？」

ピッコは聞きました。

「そうよ、ピッコのはじめてのおともだちね」

お母さんはやさしく言いました。



ごはんを食べはじめたピッコですが、

ポッコちゃんが気になってしかたありません。

ポッコちゃんを見ていると、

どうしても食べるのがおそくなります。

「ちゃんと食べないとだめよ」

とお母さんカバがちゅういしました。

ピッコはまた食べはじめました。



「ごちそうさまー」

ピッコはとうとう食べるのをやめてしまいました。

お母さんカバは、

「しょうがないわね～」とでも言うように首をふっています。

ピッコは、いそいでポッコちゃんのそばへ行きました。

ふたりはしばらくいっしょにあそびました。



ピッポはあそびつかれてねむくなってきました。

お母さんカバの体の下にもぐると、

スースーとねむりはじめました。

お母さんカバはピッポが目をさまさないように気をつけながら、

食事をしています。

体が大きいので、時間をかけてたくさん食べるのです。



食べ終わったお母さんカバは、

ピッコをそっと鼻でつついておこしました。

「ピッコ、そろそろおうちへ入りましょう」

ピッコはねむたそうに目をこすりました。

あたりをみまわしましたが、

ポッコちゃんのすがたが見えません。

「ポッコちゃんは何？」

「ポッコちゃんもおうちへ帰りましたよ」

「またあそべるかな～」ピッコはしんぱいそうです。

「だいじょうぶ、また来てくれますよ」

ピッコは安心して、お母さんカバといっしょにおうちへ入りました。